

オガサワラカワラヒワ基礎情報資料

1 生態情報

1.1 分類

- 学名 : *Chloris sinica kittlitzi*
- スズメ目アトリ科カワラヒワの亜種
- 環境省 RL2020 : CR (絶滅危惧 I A 類)
- 他亜種と古くに分岐しており、
今後独立種として扱う可能性あり。

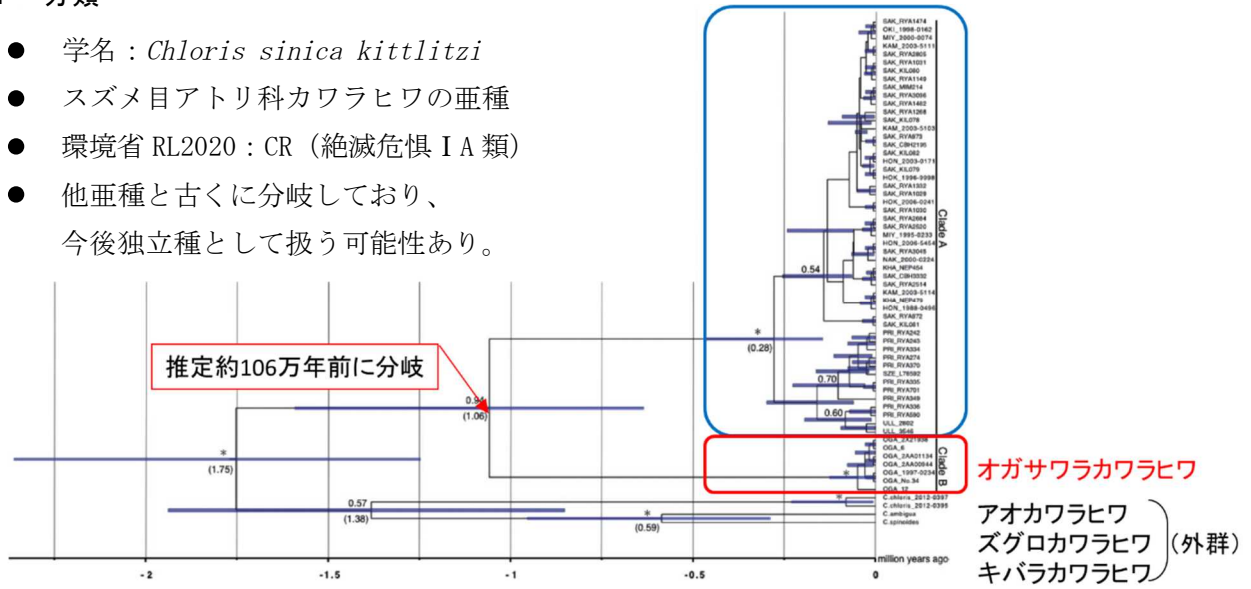
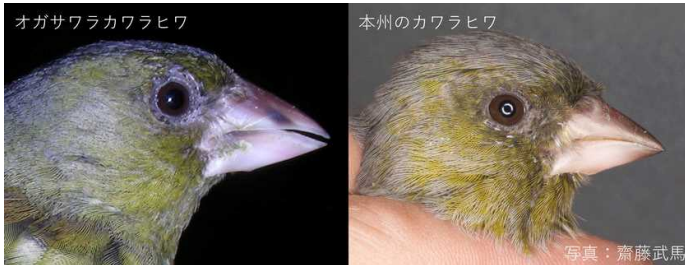


図 1-1 種カワラヒワの亜種間分岐年代推定 (Saito et al. 2020)

1.2 形態

- 亜種カワラヒワに似るが、以下の特徴がある。
 - 雄はより鮮やかな緑色
 - 体重、翼長、尾長ともにやや小さい
 - 嘴は相対的に大きい



オガサワラカワラヒワ WS 実行委員会 HP より

- 全長は約 14cm、体重は約 18 g
- 雄は頭部等の緑色が濃く、雌は褐色みが強い。
- 若鳥は胸から腹に縦斑がある。

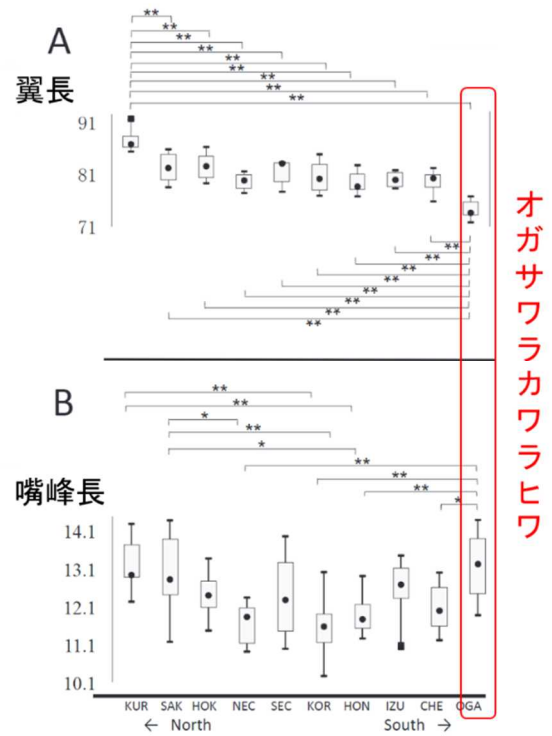


図 1-2 カワラヒワ亜種間の形態比較 (Saito et al. 2020)



図 1-3 オガサワラカワラヒワの外見。左から、雄、雌、若鳥。
(川上・川口 未発表)

1.3 分布記録

- 現在は母島属島（向島、平島、姉島、妹島、姪島）、南硫黄島で繁殖
- 非繁殖期に母島に飛来
- 戦前は小笠原諸島全域に生息していたが各地で絶滅
- 父島列島では8月～9月頃に数百羽の大群が渡ってくると記録（東京府小笠原島庁1914）

1.4 食性

- 繁殖期の主食：ムニンアオガンピ (Nakamura 1997)

1.5 繁殖生態

- 繁殖期：4月上旬～6月中旬
- 卵数：3～4 (Nakamura 1997)
- 繁殖環境：乾性低木林
- 営巣木：1990年代の調査ではトクサバモクマオウ、リュウキュウマツ、アカテツ、ハツバキ、シャリンバイ (Nakamura 1997)、2010年代以降はトクサバモクマオウのみ
- 巣立ち後には家族群とみられる小さな集団で採食する姿が見られる。
- 数十羽から時には100羽以上の群れが見られることもある。
- 標識個体の観察から、繁殖個体は毎年同じ属島で繁殖していると考えられる。

2 個体数

- 観察数は減少傾向
- 推定個体数は200 個体程度（母島列島個体群と南硫黄島個体群の合計値）
- 繁殖期が終わった7～10 月頃に母島で確認数が増加するが、冬季は属島でも母島でも確認数が激減する。冬季は母島列島個体群の大部分が別の場所へ移動している可能性がある。

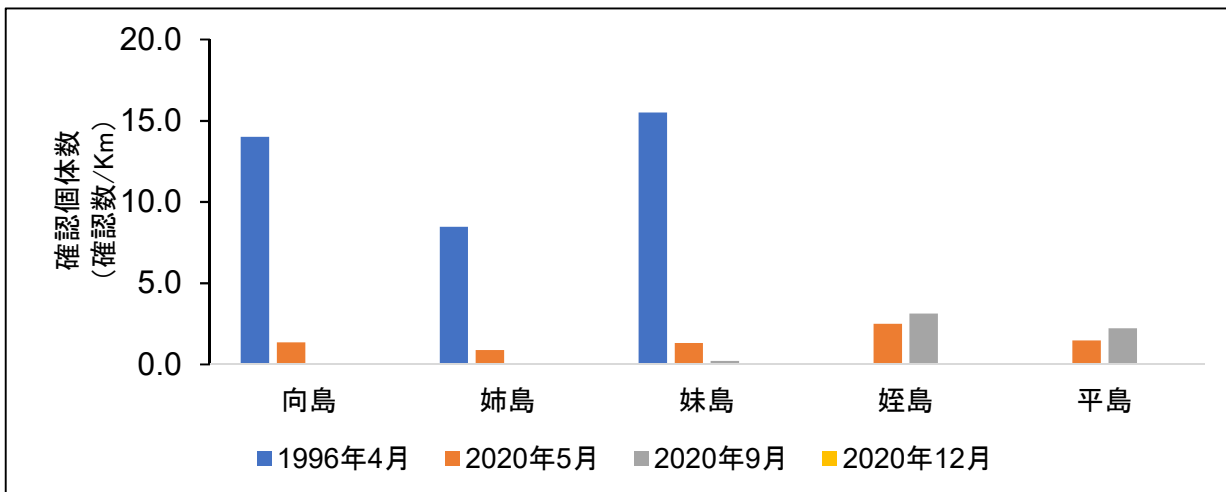


図 2-1 母島属島におけるラインセンサス結果（関東森林管理局 & Islands care 2021）

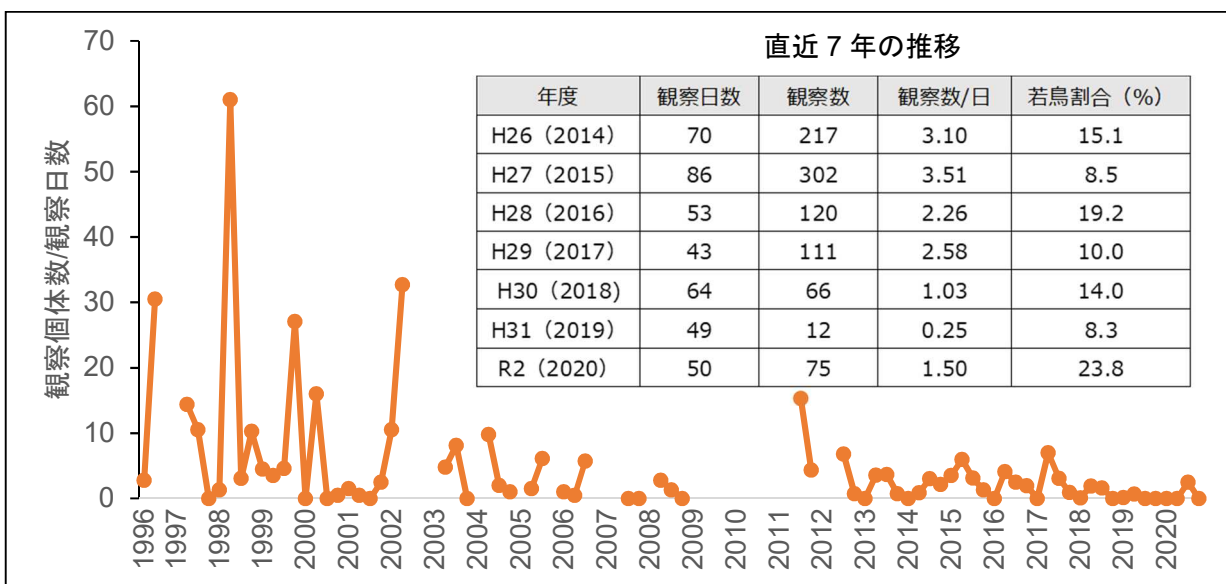


図 2-2 母島における観察数の推移（関東森林管理局 2021）

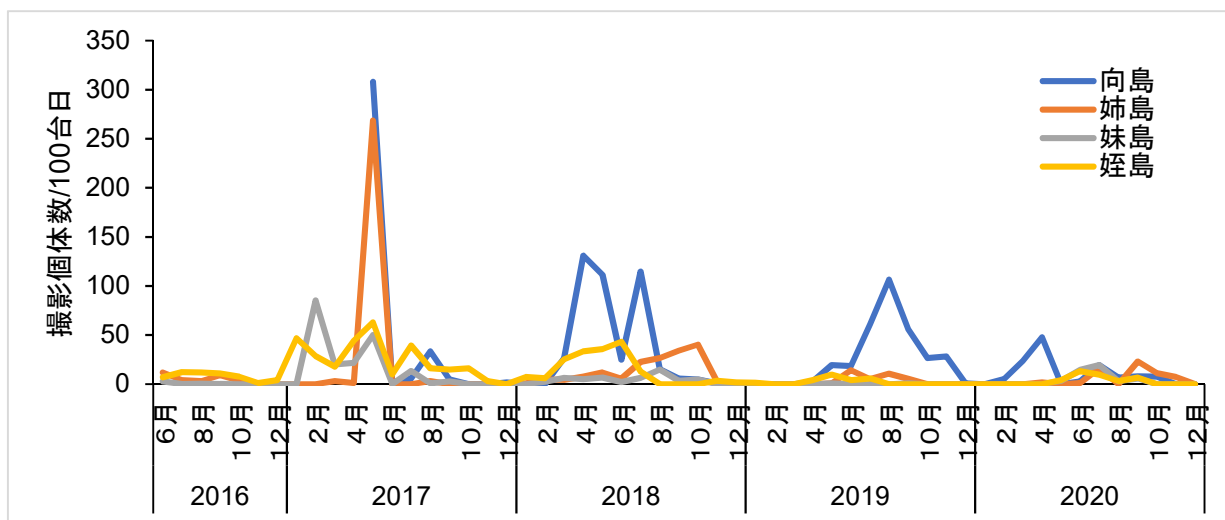


図 2-3 オガサワラカワラヒワの撮影状況の季節変動（関東森林管理局 2021）

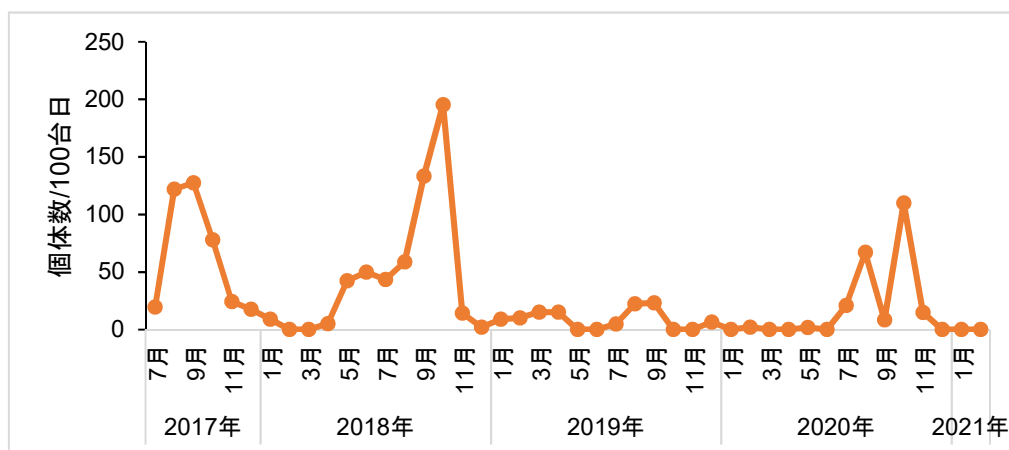


図 2-4 センサーカメラのオガサワラカワラヒワの撮影数推移（過去4年）（関東森林管理局 2021）

3 標識状況

- 2005 年より標識調査を実施
- 2020 年度時点で累計 220 羽に標識

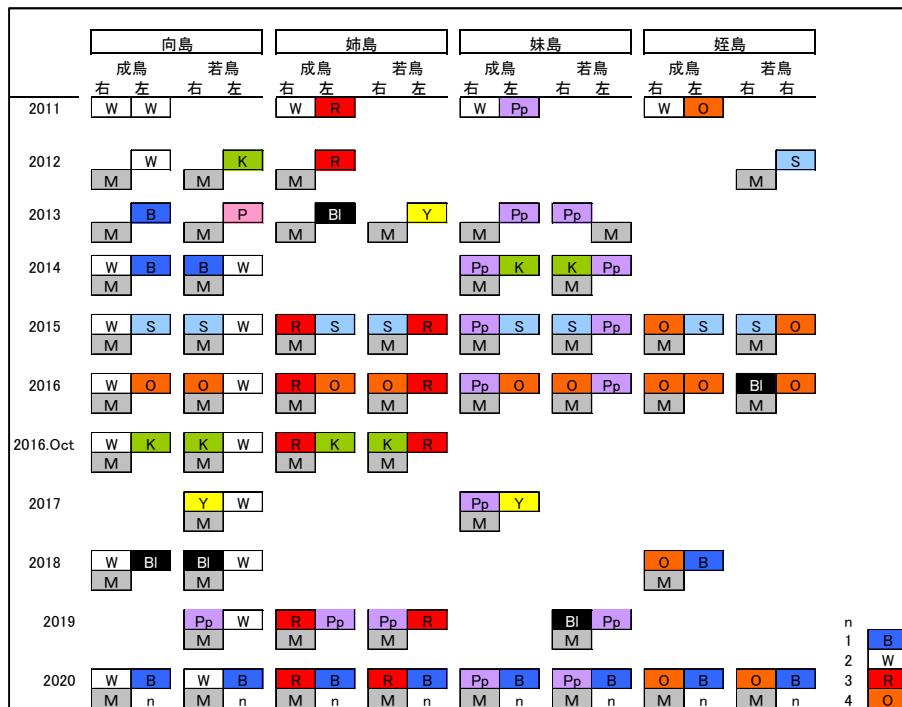


図 3-1 母島属島別色足環表 (関東森林管理局 2021)

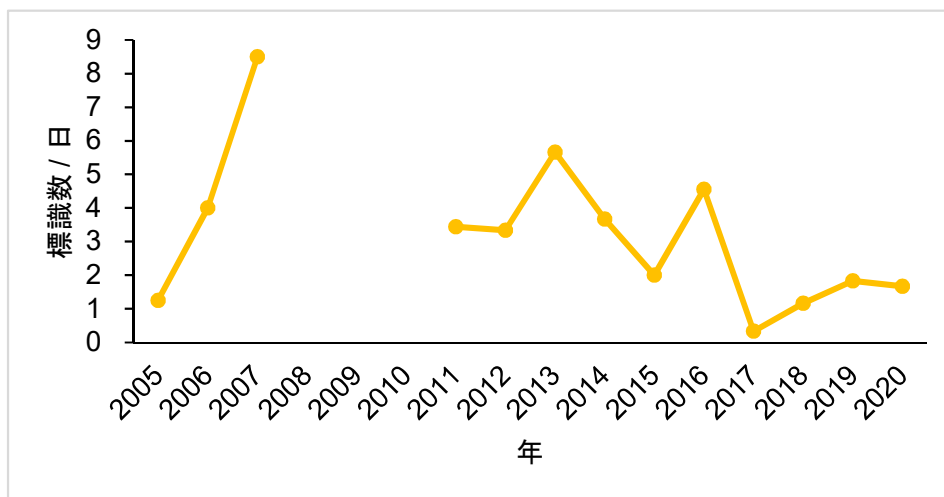
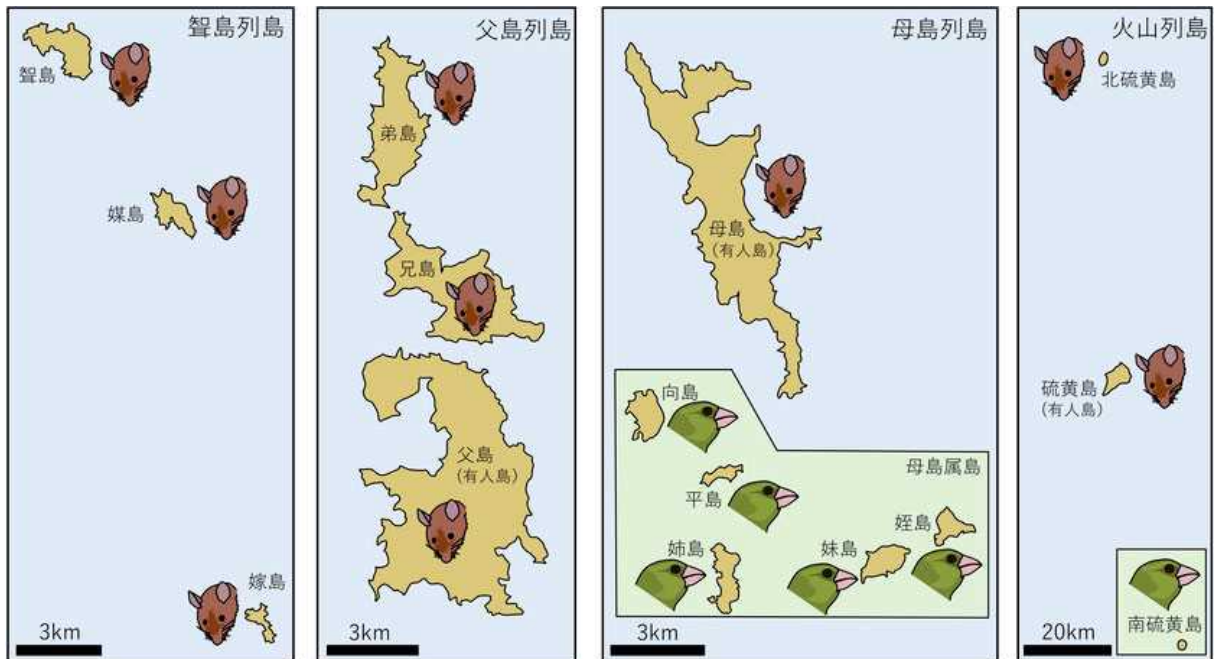


図 3-2 オガサワラカワラヒワの標識調査の標識数の推移 (関東森林管理局 2021)

4 減少要因

- ネズミによる捕食
 - クマネズミの侵入していない島だけに分布
 - 繁殖している島にはドブネズミが生息
- 現在の主要営巣木は外来種トクサバモクマオウ（幹が通直であるためドブネズミが登りにくい）



オガサワラカラヒワ WS 実行委員会 HP より

- ネコによる捕食
 - 非繁殖期は母島に飛来し、集落および農耕地周辺で頻繁に地上採食
 - ネコの糞からカラヒワが検出される（川上・益子 2009）
- その他脅威となる可能性のあるもの
 - 餌資源量の減少、水場の減少、近交弱勢、個体群サイズの極度な減少、感染症等